

第2610地区 富山第4グループ ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2610



高岡西ロータリークラブ

2022-2023 ■会長 本田準一 幹事 広上利晴 ■クラブ会報・広報・雑誌・公共イメージ委員会 山田正博 伊勢豪範 清都康介 三屋尚之 後藤尚彦



イマジン
ロータリー

No.2156

第2640例会 2022年8月24日(水)

今年度第7回 於: classico クラシコ

阪口政博ガバナー補佐訪問

◇開会点鐘

◇ロータリーソング それでこそロータリー

◇四つのテストソング

◇会長挨拶

先日から呉羽梨の収穫が始まったとテレビ・新聞等で報道されていますが、今日は呉羽地方の梨栽培の歴史について調べてみましたので、簡単にお話しします。

呉羽地方で梨の栽培が始まったのは、今から100年以上も前の事、明治30年後半です。標高80Mの丘陵地帯は水の便が悪いうえ、水持ちがなくすぐに干しあがってしまい、稲作には不向きな土壌であり、お茶の栽培は少しありましたが農家に安定した収入には至りませんでした。地元、富山市吉作の「土池弥次郎」氏はこの地に合う作物は何が良いのかと全国を色々見て歩き、東京興農園から青梨「太平」の苗木30本を購入し自分の畑で栽培しましたが、味が弱く実の数も少ない。その後、赤梨「長十郎」の苗木を植え、試作を試してみると味も良く多収穫であった。土池弥次郎は、村人に「長十郎」の栽培方法を熱心に指導し、昭和に入り生産から販売の体制作りにも精を出し、現在の集荷場の基礎を築いた人でもあります。昭和30年、84歳で梨一路の生涯を閉じました。

現在、梨の主な品種は「幸水」「豊水」「あきづき」「新高」で、栽培面積135ヘクタール出荷量3,500トン、特に幸水は栽培面積の7割を占め、甘みが強く果汁豊富シャキシャキとした歯ざわりは抜群の人気があり、県内外へ出荷されています。

◇幹事報告

・例会プログラム、変更について

◇委員会報告

→出席報告(会員数41名)

出席者: 30名(内、Web出席者 3名)

出席率: 79.5%

→ニコBOX

阪口AG「本日はよろしくお願い致します。」

本田会長「阪口AG、本日のお話楽しみです。よろしくお願い致します。」

広上幹事「阪口AG、今日は宜しくお願いします。

(PS) 折り鶴の作り方を教えて下さい。」

中川さん「阪口AG、本日はよろしくお願い致します。」

山田さん「阪口AG、本日のお話楽しみです。大変ですネ！」

小川さん「7月にコロナにかかってから1カ月ぶりの出席となりました。ちなみに今日が48歳の誕生日です。」

鍋嶋委員長より。

通算147,000ニコニコ

→阪口ガバナー補佐卓話地区の活動や指針などについてをガバナー補佐の視点から詳しくお話しして頂きました。(裏面詳細)



今後の例会予定

☆9/14(水) 第1例会・会員卓話(小川会員)

★9/21(水) 休会

☆9/28(水)→10/2(日)に変更

早朝清掃例会 @高岡古城公園

ガバナー補佐訪問卓話 富山第4グループガバナー補佐 阪口政博 『今年度の地区活動について』

今日はガバナー補佐という立場でRI会長のお言葉や黒川ガバナーのお考えと地区の方針の話をさせて頂きたいと思います。

初めにガバナー補佐についてお話をします。ガバナー補佐は2610地区に9名おまして64クラブを分担し各クラブを訪問してクラブの現状と活動内容を報告書でガバナーへお伝えをします。また各クラブ会長、幹事や会員の方々とのお話の中でロータリー活動をより良くするための情報交換をします。私たちの富山第4グループは7クラブありまして今年が高岡西、続いて氷見中央、小矢部中、高岡北、南砺、氷見、小矢部の順に担当が決まっておりますので7年後には担当となることをクラブとして考えておいてください。

さて今年度RI会長のカナダのジェニファーE. ジョーンズ氏のテーマは「イマジンロータリー」であります。イマジンと言いますとジョンレノンの歌を思い起こしますが、素晴らしいロータリーを考えて下さいというメッセージだと思います。また今回RI会長はDEIを強調され、その意味を学び重要である理由と、これらの原則をクラブにとり入れることがクラブの成長と発展に役立つので、DEIに関する行動を起こすことを奨励されております。

DEIはダイバーシティ 多様性、 エクイティ 公平さ、 インクルージョン 包括、包含のことです。

いずれも私にはなじみがない言葉ですが多様性とは国籍、人種、性別など違う状態にあることを言い、ロータリークラブや社会もこれらの集団であるということです。これらの多様性に公平に接し多様な人々がお互いの個性を認め一体感を持って行動することを求めていこうということだと思います。日本はざっくりと単一民族で日本語という言語を使っておりまして多様性を意識する機会は今までなかったのですが身近に感じる変化が出てきました。

次にRIについては3年に一度開催されます規定審議会が4月に開催され承認された案件を説明したいと思います。時間の制約もありますので身近な案件を2件報告いたします。

1 22-13 会員がクラブの所在地域に住居または事業所を有するという要件が廃止されました。国籍を問わずどこに住んでいてもどこのクラブにでも入会できるということです。但し会員として例会に出席する、雑誌を読む、会費を払うことの義務を果たすことは必須です。

2 22-85の案件でクラブが地区ガバナーに月次出席報告を提出する義務が廃止されました。このことは出席は各クラブで管理を行うことでありましてガバナーは関知しないということであり、以前は出席優秀クラブの表彰もあり励みにしてきましたが現在はありません。例会への出席を奨励することに後ろ向きになっているように感じるの私だけでしょうか。

さて今年度黒川ガバナーのお考えをお話したいと思います。黒川ガバナーは今年のテーマを「ロータリーと共に地区クラブの支援を調査し 地区として、支援策を考え 地区として、行動を起こす」とされております。これは各クラブ困っていることや満足度を調べてその解決策を64クラブの皆さんと考え実行しようということであり、すでにガバナー事務所から各クラブ宛に調査用のアンケートが届いていると思いますが全会員に記入してもらい集計をして実態を把握して頂きたいと思います。非公式ではありますが会員数の減少により事務局の仕事が負担になっていることなどを地区事務所で支援できないかなどです。地区事務所も一か所に固定されガバナー、ガバナーエレクトとの引き継ぎがスムーズに行われていると聞いております。

次にポリオ根絶の件です。現在もパキスタンとアフガニスタンで発症しており減少はしておりますが根絶に向けて引き続き支援をしていきたいと言っておられます。今年度は64クラブ全てのクラブを訪問されますので全会員に折鶴を一羽ずつ作ってもらいそれをパキスタンとアフガニスタンに持ってこうとしておられます。今年の米山奨学生にパキスタンの学生がおられるそうでその方にお世話をお願いしていると聞いております。卓話が終わりましたら皆さんと折鶴を作りたいと思います。

ロータリー財団への寄付はロータリー活動の資金です。地区補助金やグローバル補助金を有効に活用しクラブの奉仕活動を活発に行ってください。目標金額は一人150ドルとポリオの30ドルですが最近の円安で苦慮しています。各クラブで例えば粗食例会など工夫をして寄付をお願いしたいとのことです。

米山奨学会への寄付の目標は一人あたり普通寄付6,000円、特別寄付10,000円の合計16,000円です。この事業にはいろいろなご意見があり好き嫌いがはっきりしている一面もあります。しかしながら日本で学ぶ学生の支援と交流の促進になっていることは間違いなく、学生はロータリーに感謝をしていて友好の懸け橋として貢献していると思います。私も中国に仕事で行ったときに米山奨学生が先方の会社におり奨学生としてお世話になったとお礼を言われうれしくなりました。高岡西RCは財団と米山奨学会の寄付額は偉大な先達のお陰を持ちまして地区でも上位の寄付額となっておりますが、最近は上記の金額のみとなっておりますこれから担当する方々は過去を振り返り活動をお願いしたいと思います。

さてIM 都市連合会は来年3月4日（土）に高岡商工会議所で開催することだけが決まっております、当日のテーマや進行につきましてはこれからですがコロナで3年間の活動が制約された中でグループ内7クラブの元気を紹介でき親睦を深める会合にしたいと考えております。

9月7日のガバナー公式訪問の時にガバナーの考えと熱意をもっと詳しくお聞きできるとと思います。